

STEP 3 交換留学

交換留学とは？

新潟大学と海外の大学(協定校)との間で結ばれている学生交換協定に基づき、1学期間(約半年)または2学期間(約1年間)、協定校へ留学する制度です。留学期間は新潟大学の修業年限(在学年限)にカウントされ、「授業料不徴収協定」が結ばれている場合、新潟大学に授業料を納めていれば、留学先大学では授業料を支払う必要がありません。協定には、大学間交流協定(大学と大学との間で締結している協定)と部局間交流協定(学部や研究科単位で締結している協定)があり、それぞれの対象や問い合わせ先は以下のとおりです。

交換留学の種類	対象	問い合わせ先
大学間交流協定校への交換留学	全学の学生	学務部留学交流推進課
部局間交流協定校への交換留学	当該学部・研究科の学生	所属学部・研究科学務係

以下、全学の学生が対象となる大学間交流協定校への交換留学について記載しています。部局間交流協定校への交換留学については、所属学部・研究科の学務係にお問い合わせください。

大学間交流協定校への交換留学 5つのポイント

ポイント1 全学部・研究科の学生が応募できる!

ポイント2 応募のチャンスは年に2回!

2～3月開始の交換留学 … 前年の6～7月頃に募集
8～9月開始の交換留学 … 前年の10～11月頃に募集 ※応募スケジュールは変更になることがあります。

ポイント3 留年なしでの留学も可能!

留学期間中に取得した単位は、所属学部・研究科に認められれば単位互換が可能です。計画的に留学、授業を履修すれば、留学期間を含めて「4年間で卒業」することもできます。(※ただし、所属学部・研究科によって異なるので要確認。応募前に、卒業までのカリキュラムや単位について、所属学部・研究科の学務係や教員と十分相談してください。)

ポイント4 経済的負担が少ない!

新潟大学に授業料を納めることで、留学先大学では授業料を納める必要はないため、留学費用の負担が少なく済みます。また、所定の要件を満たしている場合は、返済不要の奨学金を受給しながら留学可能です。(奨学金については、詳しくはp.19へ!)

ポイント5 手続き面でのサポートあり!

大学間交流協定校への交換留学は、留学が正式に決定するまで学務部留学交流推進課が留学先大学と連絡を取りながら手続きを進めます。また、留学手続きオリエンテーションや渡航前オリエンテーションにて、手順等を確認することができます。

主な留学先	国・地域	大学名	国・地域	大学名	国・地域	大学名
	アメリカ	ロードアイランド大学	タイ	チュラロンコン大学 他	ドイツ	ミュンスター大学 他
	アメリカ	カリフォルニア州立大学ソノマ校	アジア太平洋地域	UMAP (アジア太平洋大学交流機構) ※	フランス	ナント大学 他
	オーストラリア	シドニー工科大学	中国	中央民族大学 他	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学
	韓国	仁荷大学、漢陽大学	台湾	国立中央大学 他		

上記以外にも様々な協定校があります。協定校の一覧は、以下のホームページで確認してください。

▶ <https://www.niigata-u.ac.jp/international/internationaldata/partner/>



※新潟大学はUMAPと大学間交流協定を締結しているため、UMAP参加大学も交換留学対象となります。

応募前 ～交換留学したいと思ったら～

目的・目標を明確にする

- どのような目的・目標で留学するのか。具体的に何を勉強したいのか。
- どの国で、どのような大学で学びたいか。留学期間は? いつ留学するのがベストか?
- 留学は、その後の自分の学びと進路において、どのような位置づけにあるのか。

後悔しない留学をするには「情報収集」から!

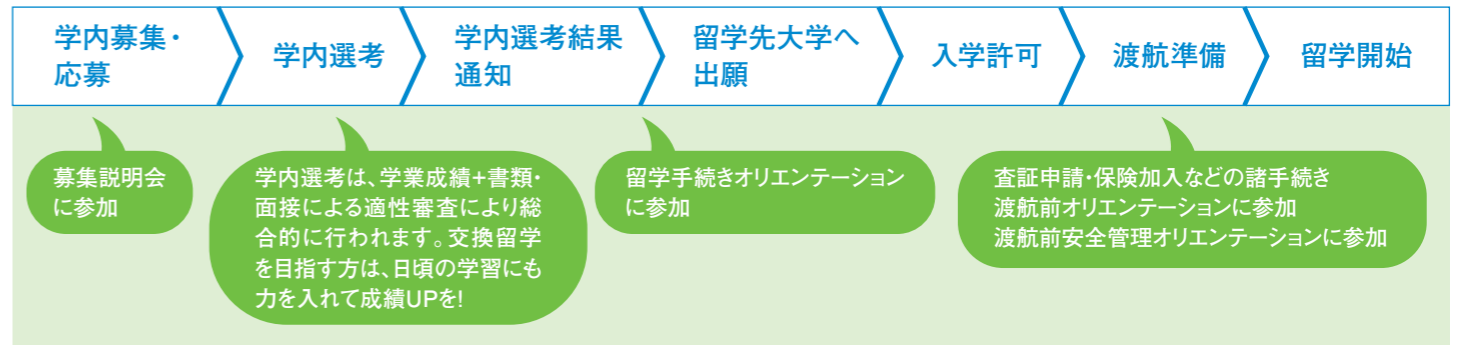
1. 新潟大学HPの交換留学のページ (協定校のファクトシートや留学体験談などを読んでみる)
2. 興味のある協定校の公式ウェブサイト (交換留學生向けの情報、特に、履修できる授業の情報など)
3. 担当教員や所属の学務係に相談する
4. 留学ガイダンス・募集説明会に出席する
5. 留学相談を活用する …他

留学先大学を選ぶ

- 学修したい内容を学ぶことができるか。
- 留学先国・地域の生活環境に適応できそうか。
- 留学先でかかる費用、現地の物価
- どのくらいの語学能力が要求されるのか
- 所属する学部・研究科のカリキュラムを履修するうえで問題はないか。

ポイント! 交換留学には、情報収集能力は不可欠! まず自分で調べてみましょう。留学中、自分の身を守り、充実した留学生活を送るうえでも役立ちます。

学内募集～留学開始までの流れ



語学要件について 早めの準備をオススメ!

協定校が語学要件を定めている場合は、**出願時まで**に必ず語学要件を満たす必要があります。英語圏への交換留学に必要なTOEFL iBTやIELTSはSpeakingやWritingを含むため、早めの準備・受験をお勧めします。また、協定校が語学要件を定めていない場合でも、語学検定試験を計画的に受験し資格を取得することで、各種奨学金制度や学内選考の審査で有利になるほか、留学中の学習効果アップが期待されます。

語学要件の例	TOEFL iBT	IELTS (Academic Module)
アメリカ・ロードアイランド大学	79以上	6.5以上
アメリカ・カリフォルニア州立大学ソノマ校	61以上	6.0以上
オーストラリア・シドニー工科大学 (1)学部正規科目を履修する場合 (2)オーストラリア言語文化課程の場合	79以上 (Writing21以上) 35以上 (Writing17以上)	6.5以上 (Writing6.0以上) 5.0以上 (Writing5.0以上)

※キャンパスや専攻によっても要件が異なります。

Check!
新潟大学では、TOEFL iBT Preparation、IELTS Preparation、中級EAP、上級EAPの英語科目が開講されています。詳しくは、英語履修案内を確認してください。

交換留学の費用

費用は、期間、行き先、滞在方法などによって大きく異なります。おおむね、渡航費10万円～20万円、住居費(学生寮など)3万円～15万円/月程度、それ以外にも、現地での生活費や保険、ビザ取得費用などを含め、合計で1年間の留学で90万円～260万円程度かかります。主な募集校の留学費用の目安については、ホームページに掲載のファクトシートに記載があります。

【留学費用の例】

(ただし、留学先でかかる費用は、日本での生活費と同じで、非常に個人差が大きく、また為替や物価の変動の影響を受けるため、あくまで一例として参考にしてください。)

仁荷大学(韓国)に2学期間留学したAさんの例		シドニー工科大学(オーストラリア)に2学期間留学したBさんの例		ナント大学(フランス)に1学期間留学したCさんの例	
渡航費(往復)	5万円	渡航費(往復)	13万円	渡航費(往復)	17万円
海外留学保険・危機管理サービス	10万円	海外留学保険・危機管理サービス	10万円	海外留学保険・危機管理サービス	4.3万円
住居費(大学の寮に入居)	2万5千円/月	現地で加入した保険	5万円	現地で加入した保険	2千円
食費	2～3万円/月	住居費(大学の寮に入居)	115万円/2学期間	住居費(大学の寮に入居)	2万円/月
大学附属語学学校授業料	30万円	食費	3万円/月	食費	2.5万円/月
留学でかかった費用(総計)	約120万円	留学でかかった費用(総計)	約200万円	留学でかかった費用(総計)	約60万円
奨学金	70万円(7万円×10か月)	奨学金	70万円(7万円×10か月)	奨学金	32万円(8万円×4か月)

大学間交流協定校への交換留学について詳しく知りたい方は、ホームページを確認してください。

▶ <https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/exchange/>

